特●集

いつ来るかわからない「その時」のために 防災のススメ

―悲観的に準備して、楽観的に生きよう―。

これは「最悪の事態を想定して災害に備え、できるだけの備えはしたのだから、後は心配せず気楽に生きよう」という意味で、沼津市の防災アドバイザー・山村武彦さんの言葉です。10月17日に市で開催した防災の講演会は満員。災害に対して、市民の皆さんの意識の高さがうかがえます。

しかし、もし今、災害が起きた場合、あなたは最寄りの避難所がわかりますか？

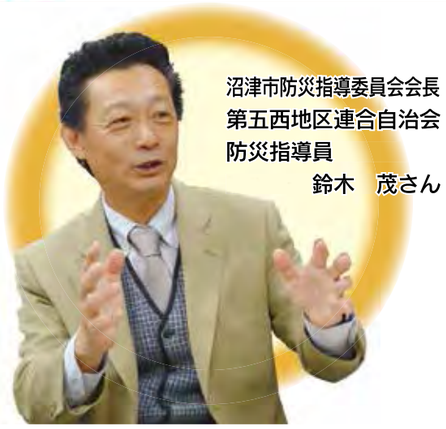
家族が一週間過ごせるだけの備蓄はありますか？

携帯電話はほぼ通じなくなりますが、その時の連絡手段は決めてありますか？

12月6日は地域防災の日です。この機会に、防災のヒントを得て、あなたができる対策や行動につなげていきましょう。

問 危機管理課 ☎055・934・4803

意外と知らない！ 地域の防災



沼津市防災指導委員会会長
第五西地区連合自治会
防災指導員
鈴木　茂さん

市内の各連合自治会には、防災指導員と呼ばれる、市が委嘱する防災のスペシャリストがいます。

防災指導員で構成する、防災指導委員会の会長で、第五西地区連合自治会の鈴木さんにお話を伺いました。

―どんな活動をしているのですか

防災指導員は、市からの防災情報を自治会へ伝えるパイプ役になっており、地域の防災訓練の指導も行っています。指導する立場としての知識を得るために、HUG（ハグ）を使った学習会や、首都圏の防災フェアに参加し、自らの防災力を高め、地域防災の向上に努めています。

―地域で知って欲しいことは

第五西地区連合会では、独自の防災倉庫を設置し、購入した資機材を配備しています。しかし、災害時に操作できる人がいなくては、せっかくの準備も無駄になってしまいます。

自分の地域の防災倉庫に入っている物を知り、多くの人がそれを使えるようになってもらいたいですね。

―自分でしておいた方が良いことは

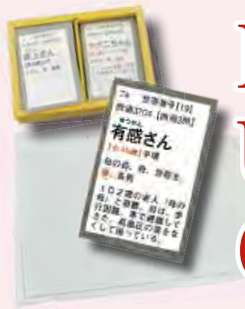
非常食等の備蓄をすることと、少し揺れただけでも「地震だ！」等と声を出すことを習慣にしておくと良いですね。声を出すことでショック状態に陥らず、逃げる動作ができますし、周囲の行動意識も呼び起こせるからです。

防災指導員は、心強い地域の防災リーダーです。リーダーとともに地域防災力を高めていきましょう。

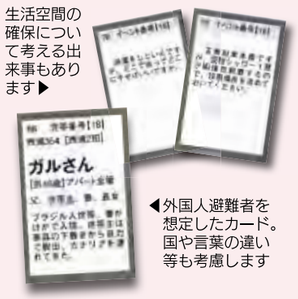
では、次に、地域の防災倉庫や備えについて見ていきましょう。

HUG（ハグ）

H 避難所 Hinanzyo
U 運営 Unei
G ゲーム Game



HUG（ハグ）は避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくか模擬体験するゲームです。



生活空間の確保について考える出来事もあります▶

◀外国人避難者を想定したカード。国や言葉の違い等も考慮します

※HUGは危機管理課で貸し出しています。

授業の教材として

11月6日、愛鷹中学校の3年生、23人の生徒が授業でHUGを体験しました。

グループで考え、けが人や妊婦、外国人などを体育館に配置していきます。避難者がどんどん増えている設定で、次々にカードが読み上げられます。一人ひとりをじっくり検討している時間はありません。

それぞれの事情を踏まえ、真剣に配置を考えます

「目が見えない人、けがをしている人が多く、その事を考えるのが大変だった」「短時間で様々な状況を判断しなければならず、苦労した」と生徒たち。

このように学校の授業でも、防災について考える取り組みが根付いています。